

九州大学大学院経済学府経済工学専攻修士課程 2 年
申晋俣

今学期から今までの約 4 か月、私は主に修士論文の作成と学内ボランティア活動に心血を注ぎました。

まず、修論についてご報告したいと思います。相変わらず、浦川研究室の修士課程にて修士論文の「高年者の労働意欲の要因に関する実証分析」という課題を研究しています。コロナウイルスの影響で、教授にもらった指導やデータベースの申請が以前より難しくなっています。でも、教授と先輩が丁寧に支えてくれたので、先週の木曜日に無事に前期発表を終えました。たくさんの先行研究を読み、福祉政策及び高年者に関わる知識を身につけました。先行研究の精読という段階は予想より難しかったです。毎日 7 時に起きて朝早くから研究室で勉強し、夜も 8 時まで残って勉強するという生活を続けています。定番のタスクは、2 時間英文論文の精読と 3 時間和文論文の精読です。その他、上級計量経済学とプログラミング言語も自習しています。ここでの努力によって学力が向上しただけでなく、何事もコツコツ努力することができる力を身に付けることができました。5 月に入ると、高年者の労働意欲の要因に関連するデータを収集しながら、教授と修論に使用されるモデルをよく相談しました。話し合いの結果、プロビット計量モデルを確定し、修論の作成も順調に進んでいます。この中で、プログラミングと上級計量経済学の結合は自分の研究に大きく役に立ちます。そもそも人工知能時代の経済学でもプログラミングの活用は何よりだと思っております。

次に、生活状況を報告させていただきます。貴協会の第一回の奨学金により、この 3 ヶ月間充実した大学院生活を過ごしてきました。昨年同様、九大伊都キャンパス文系サポートチームの一員として、各国の新入生をサポートしています。主な仕事内容は、入寮時の支援、区役所での支援や学内生活に関わる支援を行っています。私のサポートにより、二人の新入生は短期間で九大の留学生活に慣れることができました。私は慢性胃炎と診断され、また皮膚のアレルギーもあり、先々月飲食店のアルバイトを辞めました。貴協会の奨学金により、このような困難な状況においても、無事に学業を続けることができました。再び、貴協会にお礼を申し上げます。

来日から 3 年半のうち、何度も挫けそうになったり、悔しさに涙が止まらないこともありました。しかし諦めずに勉強を続け、周りの暖かい支援をいただいて何とか前に進むことができました。私は、貴協会の支援でより多くの専門知識を学び、それらを活かして自分が目指している経済研究を進めていきたいと考えております。